

2019. 5. 17

アルケミストの小部屋

「習わなかったからできない」は許されない 独学の重要性

書籍「独学の技法」より、次の文章を抽出した。

リベラル・アーツが「知的戦闘力」にいかに関与するかは本書で考察する。「直接的なビジネスへの有用性」という点では、もっとも「役に立たない」学問の代表と言ってもよい。

※「すぐに役に立つもの」は「すぐに役に立たなくなる」

独学システム ①戦略、②インプット、③抽象化・構造化、④ストック

インプットの量が多くても、抽象化・構造化が出来なければ、単なる「物知り」にはなれるが、状況に応じて過去の事例を適用するような柔軟な知識の運用は難しい。

ストックを、状況に応じて自在に引き出して使うことが出来なければ、「知的戦闘力」の向上は果たせない。

知的戦闘力には身体能力と同じで、瞬発力と持久力の両方が求められる。瞬発力とは、インプットされた情報を臨機応変に引き出せること。

「覚えられないこと」を前提とした独学システムの構築 カギとなるのは「脳の外部化」一度インプットした情報を自分なりに抽象化・構造化したうえで、外部のデジタル情報として整理しストックする。

本やノートに書いてあることを、どうして覚えておかなければならないのかね？（アインシュタイン）

「独学」が必要な4つの理由 知識の不良資産化、産業蒸発の時代、人生三毛作、クロスオーバー人材 ※クロスオーバー人材：2つの領域を横断・結合できる知識が必要に。イノベーションの推進に必要な人材。Π型（パイ型）人材

行動心理学 人のふるまいを研究

社会心理学 組織のふるまいを研究

「なにをインプットしないか」 知的生産システムのボトルネックは「インプットの量」ではなく、「インプットの密度」にあります。

何をしないかを決めることは、何をするのかを決めるのと同じくらい大事だ。会社についてもそうだし、製品についてもそうだ（スティーブ・ジョブス）。

知の創造は予定調和しない。 セレンディピティ 学びは「偶然の機会」を通じてしか得られない。

「問い」のないところに「学び」はない。独学の目的は新しい「知」を得るよりも、新しい「問」を得ることだといってもいいほどです。

アップルと言う会社は、「リベラル・アーツとテクノロジーの交差点に立っている会社（スティーブ・ジョブス）

人がお金を払うのは、いつも「ユニークなもの」にです。「人並」ではダメです。

独学の戦略を明確にしておくのと、抽象化・構造化の能力も高まります。

多くのイノベーションが、「非専門家」によって成し遂げられた。

過去の偉大なイノベーションは、本来意図した用途市場とは全く別の用途で花開いているケースが多い。 ※セレンディピティ？

同質性が高い人たちが集まると、意思決定のクオリティが著しく低下する傾向がある。

「知的戦闘力が上がる」とは「意思決定の質が上がる」ということ

抽象能力とは、人間の能力の中でもとりわけ高度で、非常に多くのイノベーションを生み出す核となる能力です。コンピュータで代替することは不可能だろうと考えられている能力です。

専門家と言うのは過去の蓄積をたくさんやっている人です。

昨今の日本では、ますます「専門バカ」が横行する傾向がありますが、これは日本におけるイノベーションの停滞に大きく関係しています。

自然科学の世界では、ある分野で発見された公理や定理が、別の領域の用いられることで、大きな発見につながったことが少なからずあります。

リベラル・アーツを学ぶ意味 イノベーションを起こす武器となる。

あらゆる知的生産は「問う」「疑う」ことから始まります。

イノベーションと言うのは、常に「それまでは当たり前だと思っていたことが、ある瞬間からあたりまえでなくなる」

リベラル・アーツは、専門領域の分断化が進む現代社会の中で、それらの領域をつないで全体性を回復させるための武器ともなります。



目次

序章 知的戦闘力をどう上げるか？—知的生産を最大化する
独学のメカニズム

第1章 戦う武器をどう集めるか？—限られた時間で自分の
価値を高める“戦略”

第2章 生産性の高いインプットの技法—ゴミを食べずにア
ウトプットを極大化する“インプット”

第3章 知識を使える武器に変える—本質を掴み生きた知恵
に変換する“抽象化・構造化”

第4章 創造性を高める知的生産システム—知的ストックの

貯蔵法・活用法“ストック”

第5章 なぜ教養が「知の武器」になるのか？—戦闘力を高めるリベラルアーツの11ジャンルと99冊

内容紹介 (Amazon)

MBAを取らずに独学で外資系コンサルになった著者の、骨太でしなやかな知性を身につける、武器としての知的生産術。

価値あることは、すべて独学で学べる——独学こそ、最強のスキルである

アインシュタイン、ダーウィン、ヴォイットゲンシュタイン、
エジソン、ライト兄弟、スティーブ・ジョブズ……。

多くのイノベーターたちはみな共通して独学者だった。

様々な社会基盤や産業モデルなどの「前提システム」が壊れ始めている今、学校で教わる知識ではこの先、戦っていけない。

この先必要なのは、現行のシステムを批判的に考えられる力であり、それを自力で学び取る独学のスキルである。

誰もが簡単に情報を入手できる時代に、知識を手足のようにどう使いこなすか？

情報の価値はますます安くなり、もはや「知識」だけでは武器にならない。

単なる物知りでは生き残れない時代、戦える武器を効果的に手に入れ、それらを駆使して自分なりの視点や洞察を生み出す知的生産術=独学術が必要だ。



目次

第1章 新しい「勉強」が必要とされる時代（なぜ人は勉強するのか？；勉強の本質は「考えること」 ほか）

第2章 なぜ独学が、一番身につく勉強法なのか（独学のメリット；独学に向く人、向かない人 ほか）

第3章 勉強をはじめる前にやっておきたいこと（いきなり勉強してはいけない；まず、自分に合う勉強のコツを探そう ほか）

第4章 新しい分野に、どう取りかかり、学びを深めていくか（情報収集・資料収集について；本の読み方 ほか）

第5章 学びを自分の中で熟成・加工し、成果をアウトプットする（専門書を読んでみよう；学びを熟成させるプロセス ほか）

内容紹介（Amazon）

テーマ設定から資料収集、本の読み方、情報の整理・分析、成果のアウトプットまで。高校へ行かず通信制大学から東大教授になった体験に基づく、今本当に必要な学び方。

勉強に対する考え方が劇的に変わる！「挫折した」「続かない」すべての人へ。高校へ行かず通信制大学から東大教授になった著者による、今本当に必要な学び方。ベストセラーとなった独学勉強法がついに文庫化！

いきなり勉強してはいけない。まず、正しい「学び方」を身につけよう。勉強は中身だけでなく、どうやってするものなのか、という学び方をもっとマスターする必要があります。

本書は著者の長年にわたる独学経験に基づき、「自分で目標を見つけ、問いを立て、集めた情報や知識を自分の中に落とし込みながら考えを深め、それを現実に応用していく」という勉強の全工程について、具体的なやり方を体系的にまとめたものです。



目次

- 第1章 勉強には技術がある
- 第2章 今なぜ勉強するのか
- 第3章 勉強するとはどういうことなのか
- 第4章 どこで勉強するか
- 第5章 勉強する環境を作る
- 第6章 知識・情報を得る
- 第7章 独学のための読書術
- 第8章 情報を整理し活用する
- 第9章 図書館活用術
- 第10章 文章を書く

内容紹介 (Amazon)

長引く構造不況のなか、知識や技能を見につけ、自分の価値を高めたいという動機から「勉強ブーム」が続いている。しかし、勉強への意欲はあっても、何を、どのように勉強したらよいかわからない向きも多い。本書では、勉強には「技術」があり、それは人に伝達することができるという考えのもと、その方法・手順を、独学者に向けて具体的に解説する。